

テーマ	1	暮らし・コミュニティ				
創造戦略	1	地域福祉力創造戦略 ～市民が孤立することのない地域づくり～				
「成果指標」 実績値の推移に係る検証と今後の取組		(現状値)	25年度末 (実績値)	26年度末 (実績値)	----->	34年度 (目標値)
1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり						
1	「孤立死について心配していない市民の割合」	43.1% (22年度)	41.1% (25年度)	32.3% (26年度)		55% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者等巡回相談事業など、ひとり暮らしの高齢者の孤独感を和らげ、安否の確認を行っているが、高齢化や核家族化に伴う単身高齢者が増加していることもあり、実績値は減少している。 ・今後は、福まちパワーアップ事業の実施などを通じて地域での見守り体制を強化することに加え、27年度中に事業者との見守り協定締結先を1社追加する予定であり、重層的な見守り体制の構築にも取り組んでいく。 					
2	「福祉推進委員会を組織している単位町内会の割合」	53.6% (23年度)	54.4% (25年度)	58.6% (26年度)		59% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進委員会を組織している単位町内会は、23年度1,176町内会から、26年度1,296町内会と増加している。 ・今後も、札幌市社会福祉協議会が行っている福祉推進委員会設置の取り組みに対し支援を継続するとともに、福まちパワーアップ事業での取組を他地区に波及させることによって、委員会の組織化を促進していく。 					
1-② 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり						
3	「生活や健康福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合」	27.0% (22年度)	25.6% (25年度)	19.9% (26年度)		10% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターや介護予防センターなど、行政の窓口とは別の相談窓口についても広く広報していることも一因となり、実績値は減少している。 ・今後も、引き続き、高齢者が相談窓口を活用できるよう、幅広い広報を実施していく。 					
4	「障がいのある人にとって地域で暮らしやすいまちであると思う人の割合」	28.1% (24年度)	22.7% (25年度)	22.7% (26年度)		60% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に対する相談支援体制の充実や市が実施している障がい福祉施策のPRを実施しているものの、実績値は横ばいにある。 ・障がいのある方が思う暮らしやすさの割合は微増(25年度53.4%→26年度54.1%)していることから、今後は障がいのある方に対する福祉施策のPRはもとより、障がいのない方に対する周知やPRに努めていく。 					
1-③ 災害に備えた地域防災体制づくり						
5	「災害に対する備えを行っている家庭の割合」	72.8% (24年度)	71.2% (25年度)	69.6% (26年度)		80% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・メディア等を通じた啓発活動に努めているが、実績値は低下している。 ・26年9月の大雨を契機に、地域における自主防災組織の活動が活発化するなど市民の防災意識は高まっており、今後も、パンフレットの配布や出前講座等など、市民に対する効果的な各種防災普及啓発の取組を推進していく。 					
6	「災害に備えた活動を行っている自主防災組織の割合」	84.6% (24年度)	80.2% (25年度)	86.6% (26年度)		95% (34年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値は、26年9月の大雨を契機に、地域における自主防災組織の活動が活発化していることも一因となり、上昇している。 ・今後も、各区における防災リーダー研修等を実施し、地域における各種防災の取り組みに繋がるよう支援していく。 					